

令和6年度 事業報告書

特定非営利活動法人NOMOベースボールクラブ

第1 特定非営利活動にかかわる事業

1. 野球クラブ支援

(1) トレーニング・春季キャンプ

令和6年度は、基礎体力向上を目的としたトレーニングを1月5日から但馬ドームで開始した。また、高知県春野総合運動公園野球場で春季キャンプ(3/4-3/13)を実施した。今回のキャンプは5年ぶりに高知県の皆様による歓迎パーティが復活、多くの関係者の方々から激励の言葉を頂いた。3月6日に、高知県軟式野球連盟に所属する選手たちへ野球教室を実施して交流を深めた。キャンプの重点課題であるチームプレーの進化を目的に連携プレー等、実践的な練習を行うなど充実したキャンプとなった。

(2) 第95回都市対抗野球大会兵庫地区第一次予選

初戦でJRS レールスターズに2-0で勝利したが、続く準決勝でYBS ホールディングスに1-7で敗れ、一次予選で敗退した。

(3) 第48回全日本クラブ野球選手権一次予選・西近畿代表決定戦

チームの最大の目標である全日本クラブ野球選手権大会出場を賭けた一次予選は、1回戦KC兵庫に8-1で完勝、続く準決勝もJFFシステムズ13-1と寄せつけず順調に駒を進めた。第一代表決定戦は、県警桃太郎に4-2で勝利し、第1代表で西近畿代表決定戦に進出した。

西近畿代表決定戦は、準決勝で八尾ベースボールクラブに8-6で逆転勝ち、続く決勝戦は強敵マツゲン箕島硬式野球部に0-9で敗れ、全日本クラブ野球選手権大会の代表権を逃した。

(4) その他の試合・通常練習

年間を通じオープン戦を14試合行い8勝6敗の成績となった。通常の練習では、こうのとりスタジアム、植村直巳記念球場、出石球場、冬季は但馬ドームを使用し、選手の競技力の向上とチームプレーの強化等、総合的な練習を行い公式戦に向けて準備を行った。

(5) 公式戦戦績：8試合5勝3敗

| 月日 | 大会名 | 対戦相手 | 結果 | 球場 |
|-------|-------------|--------------|-------|-------|
| 4月6日 | 都市対抗一次予選 | JRS レールスターズ | ○2-0 | G7神戸 |
| 4月11日 | 都市対抗一次予選 | YBS ホールディングス | ×1-7 | 高砂 |
| 4月29日 | クラブ選手権一次予選 | KC兵庫 | ○8-1 | 高砂 |
| 5月3日 | 〃 | JFFシステムズ | ○13-1 | 〃 |
| 5月5日 | 〃 | 県警桃太郎 | ○4-2 | 〃 |
| 7月6日 | クラブ選手権西近畿予選 | 八尾ベースボールクラブ | ○8-6 | 大ガス今津 |
| 7月6日 | 〃 | マツゲン箕島野球部 | ×0-9 | 〃 |
| 8月6日 | 秋季大会 | 県警桃太郎 | ×1-6 | 姫路 |

(6)オープン戦戦績：14試合8勝6敗

| 月日 | 対戦相手 | 結果 | 球場 |
|-------|-----------------|-------|--------|
| 4月1日 | 神戸医療未来大学 | ×2-7 | 植村直己 |
| 4月19日 | 日本製鉄東海 REX | ×3-14 | 東海 REX |
| 5月11日 | NSB ベースボールクラブ | ×4-5 | キッピー |
| 5月15日 | ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 | ○8-1 | こうのとり |
| 5月30日 | 関メディベースボール学院 | ○7-6 | こうのとり |
| 6月6日 | 県警桃太郎 | ×2-4 | こうのとり |
| 6月12日 | 履正社国際医療スポーツ専門学校 | ○4-3 | こうのとり |
| 7月17日 | 履正社国際医療スポーツ専門学校 | ○4-3 | 履正社箕面 |
| 7月26日 | 大阪学院大学 | ○9-3 | こうのとり |
| 8月7日 | ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 | ○7-1 | こうのとり |
| 8月21日 | 関メディベースボール学院 | ×1-2 | 春日 |
| 8月23日 | 大阪学院大学 | ○7-2 | 大阪学院 G |
| 10月7日 | 履正社国際医療スポーツ専門学校 | ×0-3 | 履正社箕面 |



(7)高取将之助選手が、プロ野球ウエスタンリーグくふうハヤテベンチャーズ静岡への入団が決定。
厳しいトライアウトの末の入団となった。



2. ベースボールクリニック事業

◆豊岡市主催少年野球教室

豊岡市「コウノトリスタジアム」を拠点に少年野球(ティーボール)教室を5回実施し、名の参加者があった。前年に続き保育園児に対しては、ティーボール教室を積極的に展開したことで、野球というスポーツの魅力を、多くの園児たちに伝えることができた。

ア. 第1回豊岡市主催少年野球教室（令和6年10月26日）

参加校・参加者数：ヤング兵庫但馬 計15名

豊岡市の行事である『夢へのチャレンジ』と題し、夢先生をNBC小池理事(元近鉄バッファローズ)が努め指導に当たった。投手陣は、小池理事が直接指導を行い、野手はクラブの所属選手がポジション別に指導を行った。打撃練習では、小池理事がバッティングピッチャーを務め、元プロ野球選手のボールに夢中でバットを振る選手たちの姿が印象的であった。最後に実施したロングティーではさく越えを連発する選手も現れ、全体を通じて活気に満ちた野球教室となった。

イ. 第2回豊岡市主催少年野球教室(令和6年10月29日)

参加チーム・参加者数： 八条認定こども園園児 計44名

野球未経験児童を中心に学校訪問形式（八条小学校）で開催した。指導中心ではなく遊びの感覚で選手と児童が一緒「走る」「投げる」「打つ」野球の醍醐味を楽しむことで、野球の面白さを児童の皆さんに体感していただいた。

ウ. 第3回豊岡市主催少年野球教室(令和6年11月2日)

参加校・参加者数：田鶴野小学校40名、神美小学校24名 計64名

第2回に続き小学校訪問形式で実施した。特に神美小学校の児童は、野球の醍醐味である『投げる』『打つ』『走る』を体験し、野球というスポーツの面白さを体験していただいた。

エ. 第4回豊岡市主催少年野球教室（令和6年11月19日）

参加校・参加者数：八条小学校62名、新田小学校33名 計95名

野球をするのが初めての生徒も多数おり、野球の基本動作である「打つ」「走る」「投げる」を楽しみながら進めていくことで、野球というスポーツの面白さを体験してもらうことを重点に実施した。短い時間ではあったが、野球の楽しさを伝えることができた。

オ. 第5回豊岡市主催少年野球教室（令和6年11月26日）

参加校・参加者数：府中小学校29名、清滝小学校25名 計54名

第4回に続き、野球をするのが初めての生徒が多数の中、野球の基本動作である「打つ」「走る」「投げる」を楽しみながら進めていくことで、野球というスポーツの面白さを体験してもらうことを重点に実施した。NBC選手のお手本のバッティング練習では、大飛球にたくさんの生徒が歓声を上げていたのが印象的であった。短い時間ではあったが、野球の楽しさを伝えることができた

この野球室を通じて、野球に興味を持ち楽しく時間を過ごすことで、児童の思い出の一助になれば幸いであり、今後の活動を通じて、豊岡市の児童達へ野球の普及が促されるとともに、健全な野球少年、少女の育成に寄与していく所存である。



3. 指導者養成・派遣

ア. ジュニアオールジャパンへの役員派遣

- ◆協力：特定非営利活動法人NOMOベースボールクラブ
- ◆開催日時：令和6年月日～日
- ◆遠征先：アメリカ合衆国
- ◆参加チーム：JUNIOR ALL JAPAN選抜チーム

大いなる可能性を秘めた子供たちに、日本では味わえない素晴らしい経験をして世界を感じてもらう。海外遠征を通じて、人間として成長し、たくさんの思い出、仲間をつくりこれからの人生の糧となることを目的に、中学生を対象とした「BOYS LEAGUE JAPAN TOUR」が、アメリカ合衆国に選手団を派遣した。

クラブは、この遠征に野茂英雄総監督、清水信英監督を派遣した。名の選手とともに、ロサンゼルスにて地元チームとの交流試合、メジャーリーグ観戦、日本領事館への表敬訪問等の国際親善を通じて、選手たちは見聞を広めた。これから彼らがさらに成長し、未来に向けて羽ばたいていくのが楽しみであり、常に上を目指して高いレベルの選手になることを祈念する。



4. 野球大会の開催

ア. 第22回NOMOCUP2024

- ◆日時：令和6年12月7日-8日
- ◆場所：但馬ドーム

◆参加チーム

| 参加チーム |
|-------------------|
| 大阪堀江ボーイズ |
| 滋賀大津ボーイズ |
| 神戸・加古川 |
| 京阪 |
| 山陽ヤング姫路・姫路アイアンズ連合 |
| 阪神 BBC ポニー |

◆戦績

| |
|------------------------------|
| 1 回戦 |
| 神戸・加古川 8-5 山陽ヤング姫路・姫路アイアンズ連合 |
| 大阪堀江ボーイズ 1 0-0 阪神 BBC ポニー |
| 準決勝 |
| 神戸・加古川 1 4-5 滋賀大津ボーイズ |
| 大阪堀江ボーイズ 1 3-3 京阪 |
| 決勝 |
| 大阪堀江ボーイズ 1 4-1 神戸・加古川 |

本大会は、野球少年たちの日頃の練習成果を発揮する場と試合を通じ、リーグの枠を超えて親睦を深める機会を提供することで、青少年の健全育成と野球の振興普及に貢献することを目的に毎年開催している。今年も各リーグからそれぞれ2チーム、合計6チームが出場し熱戦を繰り広げた。

優勝は、大阪堀江ボーイズが、決勝でリーグ代表に神戸・加古川 1 - 14 と大勝した。

優勝：大阪堀江ボーイズ

最高殊勲選手：清田錬玄選手（大阪堀江ボーイズ）



イ. 第9回NOMO・KRIYAMA ALLSTARGAME

◆日時：令和6年1月8日

◆場所：全但バス但馬ドーム

◆優勝：栗山巧ドリームチーム

◆最高殊勲選手賞：松浦歩翔（栗山巧ドリームチーム）

本大会は、NOMO ベースボールクラブの本拠地但馬地区と、栗山 巧杯の拠点神戸地区がそれぞれ小学生軟式野球の選抜チームを結成し、年に1度、兵庫県内の南北交流戦として決戦に挑む大会である。今大会は両者譲らずの大熱戦の末、栗山巧ドリームチームが 7-6 で但馬少年野球連盟選抜チームに大逆転勝利した。



(7)その他この法人の目標を達成する事業

ア. 地域貢献活動

「チャレンジ応援祭2024」植村直己冒険館
野球を通じて子供たちとふれあいの場となった。



イ. 広報活動

ホームページ、会報(年2回)にて情報提供を実施

第2 その他の事業

1. 物品販売業

毎年、クラブオリジナルグッズの定期販売をホームページ・FAX等で行い、寄附金以外の活動資金の確保を図った。

2. 支援自販機事業

NOMOベースボールクラブでは、売り上げの一部がクラブに還元される『NOMOベースボールクラブ自販機』を飲料会社様のご協力により豊岡市内に設置している。

3. 理事会・総会

第1回理事会：令和6年3月22日

第2回理事会 令和6年12月7日

令和6年度通常総会：令和6年3月22日

以上